



牛久消防署東部出張所運用開始

このたび、牛久消防署東部出張所を開設し、4月1日(水)から運用を開始しました。

牛久市の東部地区は、これまで消防車や救急車の到着に時間を要することが懸案事項となっていました。この開所により東部地区の消防力が整備され、さらに牛久市全域の防災体制が強化されました。



所在地	牛久市久野町798-1
敷地面積	2488.29㎡
延べ床面積	575㎡
建物	鉄骨造1階建て、準耐火建築物
職員数	16人
配置車両	水槽付ポンプ車1台 高規格救急車1台、連絡車1台

問い合わせ

稲敷広域消防本部牛久消防署 ☎ 873-0119



↑芋銭(写真右)と廣瀬の記念写真(小川未太郎氏所蔵)

小川芋銭研究センター
北畠健

送りなどを含む)が予測されず。
修行期の芋銭は、前記のとおり逼迫ひっばくした日々を過ごした、といわれてきました。こういった境遇からはい上がり、画聖と評されるまでに上り詰めたとすれば、芋

真ながらも、革靴のようなものを芋銭が履いているのが分かります。対する廣瀬は、はだしです。帽子はといえば、廣瀬は麦わら帽子、芋銭は何やら上質そうなものを手にしています。着衣については、質まではうかがうべくもありませんが、総じて芋銭は「ダンディー」であるように見受けられます。

さて、前段でなぜこのようなことを記すかについては、理由があります。今までの芋銭研究において、彰技堂終了後の芋銭は、経済的にも最も苦境にあった、と説かれています。いま、これが事実か否かを考える情報を、一枚の写真から引き出してみます。

それでは再び写真に戻り、芋銭と廣瀬の身なりを比較してみます。不鮮明な写真ながらも、革靴のようなものを芋銭が履いているのが分かります。対する廣瀬は、はだしです。帽子はといえば、廣瀬は麦わら帽子、芋銭は何やら上質そうなものを手にしています。着衣については、質まではうかがうべくもありませんが、総じて芋銭は「ダンディー」であるように見受けられます。

画聖 小川芋銭

再び芋銭を考える⑥

前回に引き続き、明治21年撮影の写真について、もう少し掘り下げてみます。

写真中の人物は、前回に記したとおり、立っているのが小川芋銭、座っているのが廣瀬孝次です。廣瀬は、画家として名を成す前に早世したため、人名辞書などに収録されることはありませんでした。したがって、経歴はもとより、その暮らしぶりについても全く明らかではありません。